

研究発表会開催通知

(平成元年3月15日～4月30日)

研究会	日時		会場	備考
自然言語処理	3月18日(土)	10:00～17:00	京大	前号参照
アルゴリズム	3月22日(水)	9:00～12:10	機械振興会館	同上
コンピュータビジョン	3月23日(木)	13:00～18:00	東大生研	同上
計算機アーキテクチャ	3月23日(木)	14:00～17:00	機械振興会館	同上

＊4月は研究会開催予定がありません。

◆ 知識工学と人工知能研究会 1989年夏のワークショップ論文・参加募集

知識工学と人工知能研究会では泊り込みのワークショップを開催することになりました。このワークショップは、人工知能におけるいくつかの重要課題について集中的な討論を行って、今後の研究方向を模索することを狙いとするものです。

日時 平成元年7月13日(木) 午後から

会場 長岡技術科学大学

テーマ (1)「エキスパートシステムはヒューマンエキスパートを越えられるか？」
(2)「記号主義でどこまでいけるか？」
(3)「機械学習は可能か？」

参加申込 討論を実質的で有意義なものにするため、参加者は疑問文の形をした上記テーマ(どれか一つ)に関する各自の見解を述べたポジションペーパー(刷り上がり2ページ、原則として著者は発表者個人とする)を提出するものとします。このポジションペーパーは通常の研究会資料として取り扱います。参加ご希望の方は、参加者氏名、テーマ番号、発表論文タイトル、50字以内の発表要旨を下記までお送りください。電子メールによる申し込みを歓迎いたします。

なお、実施上の都合により口頭発表を割愛させていただく場合や、参加者数を制限させていただくこともありますのでお済みおきください。申し込みがお受けできない場合は5月10日(水)までにお知らせします。

申込、問合せ先 西田豊明 606 京都市左京区吉田本町 京都大学 工学部 情報工学教室
e-mail: nishida@ doshita. kuis. kyoto-u. junet
Tel. 075(753)5386

締切 平成元年4月25日(火) 必着

主催 知識工学と人工知能研究会

追記 7月14日午前には通常の研究会を長岡技術科学大学にて行います。

◆ データベース・システム研究会、データ工学研究会(電子情報通信学会) 共催研究会

関連の深い両研究会の研究発表の交流を通じて、今後の連携と研究活動の相互促進を図るため、下記の要領で共催研究会を開催いたします。

日時 平成元年7月20日(木)～21日(金)

会場 沖縄電信・電話会館(新規名称プラザでいご) [900 那覇市楚辺 1-14-12, Tel. 0988 (55) 5741]

テーマ 2日間の会期中に「次世代データモデル特集」および「一般」の研究発表、さらにパネルディスカッションの開催を予定しています。広く募集いたしますので奮ってご応募ください。

発表申込方法 研究会発表申込用紙(本欄末添付)に発表題目と50字以内の概要を記入し、学会事務局研究会担当までお申込みください。

発表申込締切 平成元年4月28日(金) 必着

人文科学とコンピュータ研究会発足のお知らせ

目 的

近年にいたりコンピュータはさまざまな分野と係わりをもつようになり、コンピュータの応用分野が拡大すると共に、情報処理の新たな展開が期待されている。特に、これまでは機械とか数理といったものから最も縁遠い分野とされていた歴史、考古学、民族学、文学、社会学、宗教、哲学、美術などの人文科学系とか博物館、美術館においてもコンピュータを積極的に使おうとする機運が高まってきた。また一方では、コンピュータの多様な応用利用にともなう社会的インパクトも随所で議論されている。

人文科学系では思弁的作業が大きな比重をしめていること、処理が定型的ではなく個別にすすめられること、利用者主導の立場がなによりも重要であること、取り扱う情報やその媒体と処理が極めて多岐にわたるなど、情報処理的には高度で多分野の技術が要求され、情報処理の専門的立場からの体系的かつ本格的取組みが必要である。また、人文科学系に属する諸学問分野と情報処理分野の専門家たちによる幅広い交流が基本ともなっていること、これらの応用コンピュータシステムは、開発者主導である現状に対して、利用者主導の立場を重視していることなどは、情報処理の学術・技術のあり方に対しての大きな問題提起でもある。

以上のとおり、情報処理、コンピュータを人文科学系に应用するための学術・技術的究明は人文科学系の学問の発展に役立つだけではなく、情報処理、コンピュータ技術の応用拡大や基本課題の発掘・解明に貢献するところが大きいことと、専門家間の交流の機運の高まりを考慮して、コンピュータと人文科学の接点を重視した新しい研究会を発足させることとなった。

多数の会員の参加と積極的な研究会活動を期待するものである。

主要な研究分野

1. 人文科学、博物館・美術館への情報処理、コンピュータの応用要素と実現技術。その概念、モデル、ハードウェア、ソフトウェア、実現事例など。
2. 人文科学系ユーザにとって柔軟なユーザ・インタフェースの実現要素と技術。その概念、モデル、要求分析の方法、ハードウェア、ソフトウェア、評価方法、実現事例など。
3. 情報処理と人文科学系間での学際的協力。その方法、評価方法、事例など。
4. コンピュータ、情報処理の社会的側面。理工学的・社会科学的解明についての基礎と事例など。

提 案 者 (五十音順)

井口征士 (阪 大)	植村俊亮 (農工大)	浮田輝彦 (東 芝)
江口一久 (民 博)	及川昭文 (国立教育研)	小沢一雅 (大阪電通大)
北風晴司 (日 電)	坂本恭章 (東京外大)	新美康永 (京都工芸繊維大)
杉田繁治 (民 博)	田中 琢 (奈良国立文化財研)	照井武彦 (歴 博)
徳永幸生 (NTT)	長瀬真理 (東京女子大)	八村広三郎 (京 大)
早川聞多 (国立国際日本文化研究センター)		星野 聡 (京 大)
洪 政国 (日本IBM)	舩形公也 (大阪教育大)	松田芳郎 (一橋大)
松本浩一 (情報大)	八重樫純樹 (歴 博)	安永尚志 (国文学研究資料館)
山本毅雄 (情報大)		

◆ 研究発表会開催予定（4月～1990年3月）

（研究会名）

（開催日・会場）

自然言語処理	5月19日(金) EDR 6月29日(木)・30日(金) 琉球大 9月22日(金) NTT 11月16日(木)・17日(金) ATR 1月19日(金) 福岡工大 3月16日(金) 阪大
データベース・システム	5月18日(木) 情報大 7月20日(木)・21日(金) 沖縄 9月8日(金) 機・B3-研1 11月17日(金) 広島大 1月18日(木) 機・B3-1 3月 東京
知識工学と人工知能	5月18日(木)・19日(金) 機・B3-2 7月13日(木)・14日(金) 長岡技術大 9月21日(木)・22日(金) 富士通 11月8日(水) 機・6F-62 1月18日(木)・19日(金) 阪大 3月21日(水)・22日(木) 東京
記号処理	6月16日(金) 慶大 9月29日(金) 機・6F-65 11月22日(水) 富山 1月 大 3月 電総研
ソフトウェア工学	5月30日(火) 機・B3-2 6月27日(火) 機・B3-2 7月25日(火) 機・B3-2 9月26日(火) 地方 11月28日(火) 機・B3-2 2月8日(木)・9日(金) 地方
マイクロコンピュータとワークステーション	5月16日(火) 機・B3-9 6月27日(火) 機・B3-1 9月22日(金) 地方 12月1日(金) 機・B3-1 2月20日(火) 機・B3-2
計算機アーキテクチャ	5月12日(金) 機・B3-1 7月13日(木)・14日(金) 北大 9月19日(火) 機・B3-2 11月20日(月)・21日(火) 神戸大 1月25日(木)・26日(金) 福井大 3月23日(金) 機
オペレーティング・システム	6月9日(金) 機・6F-65 9月8日(金) 機・B3-研1 11月10日(金)・11日(土) 宇都宮大 2月23日(金) 機・6F-65
コンピュータビジョン	5月18日(木) 豊橋技科大 7月20日(木) 筑波大 9月21日(木) NTT 横須賀 11月16日(木) 金沢大 1月25日(木)・26日(金) 阪大 3月15日(木) 機
設計自動化	5月23日(火) 機・B3-2 7月11日(火) 機・6F-65 10月17日(火) 明大 12月14日(木)・15日(金) 奈良女子大 2月20日(火) 機・B3-1

マルチメディア通信と分散処理	5月19日(金) 愛媛大 9月28日(木) 機・6 F-67 1月26日(金) 機・6 F-65
ヒューマンインタフェース	5月15日(月) 機・B 3-1 7月13日(木) 機・6 F-65 9月7日(木) 機・B 3-1 11月9日(木) 機・B 3-2 1月18日(木) 機・B 3-2 3月8日(木) 地方
グラフィクスとCAD	5月12日(金) 東大 7月21日(金) 機・B 3-2 8月17日(木) ・18日(金) 集中研究会(浜松) 10月19日(木) 九大 12月15日(金) NTT 横須賀 2月23日(金) 機・B 3-2
数値解析	7月7日(金) 機・B 3-1 10月7日(土) 地方 12月8日(金) 機・B 3-2 3月中旬 機
ソフトウェア基礎論	5月19日(金) 豊橋技科大 9月8日(金) 機・B 3-2 9月20日(水) NTT 武蔵野 11月13日(月) 地方 12月8日(金) 富士通 3月9日(金) 機
情報システム	5月15日(月) 機・B 3-2 7月18日(火) 私学会館 10月17日(火) 機・B 3-1 1月16日(火) 機・B 3-1 3月20日(火) 機
プログラミング言語	6月13日(火) 機・B 3-1 9月 地方 12月 機 2月 機
情報学基礎	6月2日(金) 機・B 3-1 8月1日(火) 機・B 3-1 10月6日(金) 機・B 3-1 12月7日(木) 機・B 3-1
コンピュータと教育	5月11日(木) 中央情報教育研究所 7月13日(木) 機・B 3-2 9月14日(木) 豊橋 12月14日(木) 機・B 3-2 2月15日(木) 機・B 3-2
アルゴリズム	5月22日(月) 機・B 3-研1 6月23日(金) 名大 7月27日(木) ・28日(金) 東工大 9月22日(金) 群大 10月24日(火) 日本IBM 11月20日(月) ・21日(火) 九大 1月24日(水) 機・B 3-研1 3月29日(木) 三菱電機(大船)
人文科学とコンピュータ	5月19日(金) 民博 9月1日(金) 日本IBMまたは国文学資料館 12月1日(金) 奈良文化財センターまたは奈良大 3月9日(金) 日本IBMまたは国文学資料館

注) 機-機械振興会館

* 各研究会に発表申込希望者は開催の3ヵ月前までに研究会発表申込書(本欄末添付)を事務局研究会係までご送付ください。

平成元年度研究会のお知らせ

平成元年度は、下記のとおり **21 研究会（新設＊1 研究会）** で行います。

- 年間をとおして参加の場合は登録をお願いします。（ただし、**本学会員に限る.**）
- 登録されていない会員は研究会当日資料代 ￥ 1,000（学生 ￥ 500）をいただきます。

（ただし、部数に制限があります。）

＊ 新設

研 究 会 名		○主 査 幹 事		取り扱う研究分野の例
1	自然言語処理	○田中 穂積	田中 裕一 徳永 健伸 内藤 昭三	言語理論, 言語行動, 言語資料・統計, 漢字処理, 専門用語・辞書, 構文解析, 意味・文脈処理, 談話理解, 知識処理, 機械翻訳, 情報検索, 自然言語処理ソフトウェア
2	データベース・システム	○牧之内顕文	大里 博志 清木 康 佐藤 和洋	基礎理論, モデル, 設計, 言語, 質問処理, 並行処理, 分散 DB, DB プロセッサ, アーキテクチャ, マルチメディア処理, オフィスシステム, CAD DB, 知能 DB, 知識ベース, インタフェース
3	知識工学と人工知能	○諏訪 基	中島 秀之 西田 豊明 原口 誠	問題解決, 推論, 探索, 類推, 学習, 認知過程 (思考, 記憶, 神経回路網), 認知モデル, 知識表現, 知識ベース, 知識獲得, エキスパートシステム, パターン理解, 自然言語理解, AI アーキテクチャ, 応用人工知能
4	記号処理	○中西 正和	小谷 善行 多田 好克 村尾 裕一	・Lisp, Prolog, オブジェクト指向言語, LOGO 等 記号処理言語の処理系, 言語仕様等に関する研究 ・エディタ, ウィンドウシステム, ネットワーク等, ・プログラミング環境 ・数式処理とそのシステムに関する研究 ・人工知能のための処理システムに関する研究
5	ソフトウェア工学	○原田 賢一	永田 守男	設計技法, 形式的仕様・プログラム図式, 試験・検証, ツール・開発支援環境, 再利用・プログラム合成, ソフト生産用エキスパートシステム, 管理, メトリックス, 信頼性, 標準化, 人間要因・教育
6	マイクロコンピュータとワークステーション	○若鳥 陸夫	氷治 義弘 森本 陽二郎 山田 剛	1. マイクロコンピュータとワークステーションの構成・ハードウェア 2. マイクロコンピュータとワークステーション用の操作系 3. マイクロコンピュータとワークステーション用の言語及び言語処理系 4. マイクロコンピュータとワークステーションの応用 (教育, 研究, 計測, ロボット, 事務, 卓上出版, 通信)
7	計算機アーキテクチャ	○田中 英彦	喜連川 優三 長谷川 隆 横田 実	計算機システムの設計・機械・制御技術, ファームウェア技術, VLSI 向きアーキテクチャ, 応用指向・問題向きアーキテクチャ, 各種並列処理アーキテクチャ
8	オペレーティング・システム	○亀田 壽夫	川島 幸之助 村松 洋	OS の基礎・構造論, 人間工学的側面, プログラミング環境, 分散・並列処理 OS, システム性能評価, 信頼性, 関連するコンピュータシステムの諸問題
9	コンピュータビジョン	○鳥脇純一郎	大田 友一 田島 譲二	視覚から入力される画像や物体などに対する情報処理研究の発表の場であり, これを通じて我が国における研究の向上とその育成, 並びに, 研究者間の交流を推進する. 具体的な研究範囲は, 画像処理, ロボットビジョン, 視覚系モデル, 物体認識, 動画画像解析, 画像データベースである.
10	設計自動化	○平川 和之	数馬 好和 神戸 尚志 山田 輝彦	LSI/VLSI・プリント基板・論理装置等の論理設計・実装設計・検査設計の自動化, ハードウェア記述言語, 階層化設計手法, シリコンコンパイラ, 設計データ・ベース, 知識ベース CAD, 設計検証, テスト容易化設計, テスト評価

研 究 会 名		○主 査 幹 事		取り扱う研究分野の例
11	マルチメディア通信と分散処理	○松下 温	水野 忠則 山崎 晴明 若山 博文	1. マルチメディアによる 高度情報通信 ネットワーク・構築技術とその応用 2. 分散処理システムの設計と運用技術・機能分散, 負荷分散等
12	ヒューマンインタフェース (文書処理とヒューマンインタフェース)	○木村 泉	角田 博保 黒須 正明 小橋 史彦	1. 計算機システムのヒューマンインタフェースとその評価 2. 思考メカニズムと認知モデル 3. 日本文入力方式 4. 文書処理 5. OA とのかかわり
13	グラフィックスと CAD	○川合 慧	宇野 栄正 中嶋 正次 守屋 慎次	グラフィックス・ソフトウェア／ハードウェア, グラフィックス言語, 図形処理・表示アルゴリズム・表示技術, CAD/CAM, アニメーション, AI の CAD への応用
14	数値解析	○名取 亮	関口 智嗣 野 隆義 福井 義成	・数値計算のアルゴリズムの開発 ・スーパーコンピュータによる超大型計算 ・数式処理との融合 ・知識情報処理との融合 ・ハードウェアや言語への提案
15	ソフトウェア基礎論	○佐藤 雅彦	柴山 悦哉 田中 二郎 秋野 達也	・ソフトウェアの理論的基礎 (仕様記述, 並列・分散処理, 拡張論理等) ・計算モデル (論理型, 関数型, オブジェクト指向等) ・プログラミングの基礎 (自動合成と変換, デバッグ等)
16	情報システム	○伊吹 公夫	鷹野 澄公 槻木 公一 西原 良一	情報システム (OIS, MIS, 情報サービスなど) の分析・設計・構築・利用, 情報ニーズ, 情報・データの管理などの理論と実際, 情報システムと人間・組織・社会
17	プログラミング言語	○笈 捷彦	上田 和紀 徳田 雄洋 戸村 哲	プログラミング言語の処理系, プログラミング言語の設計, 標準化, メタ言語と言語の定義
18	情報学基礎	○藤原 譲	有川 節夫 岩野 和生 吉田 郁三	1. 情報の同定, 識別, 記述, 評価など 2. 情報の媒体, 変換, 分類, 標準化など 3. 情報の管理可能性, 組織化, モデルなど
19	コンピュータと教育	○有山 正孝	雨宮 幸雄 大槻 平誠 竹谷 誠	1. 知的教育システム (①知的要素技術の基礎的研究, ②知的教育システム開発の実践的研究, ③知的インタフェース) 2. 情報処理教育 (①カリキュラム開発, ②教育技法)
20	アルゴリズム	○野崎 昭弘	今井 浩勝 中村 隆夫 西関 隆夫	1. グラフ, ネットワーク, VLSI などに関する組合せアルゴリズム 2. 計算幾何学と計算代数学 3. 暗号, 符号などの数論的アルゴリズム 4. 確率アルゴリズム, 近似アルゴリズム 5. 並列アルゴリズム, 分散アルゴリズム, ハードウェアアルゴリズム 6. データ構造 7. 計算複雑さの理論
21	*人文科学とコンピュータ	○杉田 繁治	小沢 一雅 及川 昭文 洪 政国	1. 人文科学, 博物館・美術館への情報処理, コンピュータの応用要素と実現技術 2. 人文科学系ユーザにとって柔軟なユーザ・インタフェースの実現要素と技術 3. 情報処理と人文科学系間での学際的協力 4. コンピュータ, 情報処理の社会的側面

研究発表会・シンポジウム論文原稿執筆要領

社団法人 情報処理学会

1. (目的) 研究発表会資料およびシンポジウム論文集は、研究内容等の発表資料として用いるほか、来聴できない研究会登録会員等に講演内容を知らせる役割ももっていますので、それだけ読めば研究の目的、考え方、手法および結論が理解できるように配慮してください。
2. (ページ数) 原稿の長さは各研究会所定のページ数 (_____ ページ) 以内とし、止むを得ず超過する場合は各主査または担当幹事の承認を求めてください。
3. (原稿用紙) 研究発表会資料およびシンポジウム論文集は、経費節約とミспリント防止のため、オフセット印刷にしています。A 4 判原稿は寸法比約 85% に、B 4 判原稿は約 70% に、それぞれ B 5 判の大きさに縮写、印刷しますので、製本された場合の読みやすさについてご注意ください。
4. 原稿は、ワープロ等を用いて、活字体で作成してください。なお、オフセット印刷ですので、印字品質にご配慮ください。
原稿を手書きで作成される場合には、原稿用紙を学会研究会・シンポジウム係へご請求ください。
5. ワープロ等で原稿を作成される場合、次の例を一つの目安としてください。ただしこの例は、活字を約 10.5 ポイント (約 3.5 mm 角) とした場合を想定しています。一般に字の大きさと不釣合に行間を詰めると大変読みにくくなりますので、ご注意ください。
 - (1) A 4 判 1 段組の場合 46 字×40 行
 2 段組 “ 22 字×40 行×2 段
 - (2) B 4 判 1 段組の場合 50 字×40 行
 2 段組 “ 24 字×40 行×2 段
 - (3) 1 ページ目の様式、および上下左右 (各 25 mm 程度) の空け方は、添付の手書き用原稿用紙を参考にしてください。
 - (4) 2 段組の場合、段間は 2 文字空き程度が適当です。
6. (図・表・写真) 図および表は、原稿用紙の最も適当な位置に原則として直接記入してください。幅いっぱいにならない図・表は左側または右側に寄せて、反対側の余白は本文に利用してください。図・表はトレーシングペーパー等にも書いても結構ですが、その場合は、図・表の入る余白を取って、その箇所に図・表の上部のみ、しっかりと糊付け(ペーパーセメント、両面粘着テープが望ましい。セロハンテープは不可)してください。写真も同様です。なお、図等は、縮小したとき見にくくならないようにご注意ください。
7. (締切期日・提出日) 原稿は _____ 月 _____ 日 (_____) までに着くよう、データシート (学術情報センター提出用、シンポジウムは不要) と一緒に下記あて提出してください。提出期限に遅れますと研究発表会またはシンポジウムの資料に掲載できなくなりますのでご注意ください。
8. (原稿の返却) 申込みにより返却いたします。

(提出先) 〒106 東京都港区麻布台 2-4-2

社団法人 情報処理学会 研究会・シンポジウム係
Tel. 03 (505) 0505

年 月 日

平成元年度研究会（新規）登録申込書

（フリガナ）
○ 会員氏名 _____ [正・学・賛] 会員 No. _____
○ 勤務先名・所属 _____ Tel. _____
所 在 地 （〒 _____）

○ 資料送付先（上記勤務先以外の場合のみ記入）
（〒 _____）

（ご希望の研究会の申込み欄に○印をつけること） （*新設）

申込み	研 究 会 名	登録費	申込み	研 究 会 名	登録費
	自然言語処理	3,000円		ヒューマンインタフェース	3,000円
	データベース・システム	3,000円		グラフィクスと CAD	3,000円
	知識工学と人工知能	2,500円		数値解析	2,500円
	記号処理	2,500円		ソフトウェア基礎論	3,000円
	ソフトウェア工学	3,000円		情報システム	3,000円
	マイクロコンピュータとワークステーション	2,500円		プログラミング言語	2,500円
	計算機アーキテクチャ	3,000円		情報学基礎	2,500円
	オペレーティング・システム	2,500円		コンピュータと教育	2,500円
	コンピュータビジョン	3,500円		アルゴリズム	2,500円
	設計自動化	3,000円		* 人文科学とコンピュータ	2,500円
	マルチメディア通信と分散処理	3,000円			

○ 登録費（年間）2,500円× _____ 件, 3,000円× _____ 件, 3,500円× _____ 件 合 計 _____ 円也
○ 次のいずれかの方法でご送金ください。いずれの場合も必ず登録申込書が必要です。
なお、会社名などで送金の場合は、別途必ず個人名を事務局までお知らせください。
☐ 現金書留：登録費と登録申込書を同封のこと。 ☐ 現金持参
☐ 郵便払込：口座番号 東京 5-83484（払込用紙に希望研究会名を記入のこと。）
☐ 銀行振込：第一勧銀・虎ノ門支店（普）No. 1013945
○ 払込み日 _____ 年 _____ 月 _____ 日
○ 情報処理学会の請求書（ 通 ），見積書（ 通 ），納品書（ 通 ）が必要です。

* 登録上の注意

- 1) 本申込書は新規の方のみご利用ください（昭和 63 年度に登録された方は使用できません。）
- 2) 昭和 63 年度にいずれかの研究会に登録された方には、別途各登録者宛に「平成元年度研究会の登録について（お願い）」を送付いたします（2月上旬）。
- 3) 登録は本学会員に限りです。各研究会登録費は年間上表のとおりです。登録者には、研究会開催のつど資料を後日郵送します。
- 4) 登録は、登録費の領収をもって正式の受付けとします。おそくとも 5 月末日までにご登録ください。6 月以降になると既刊の資料は確保しかねますので、ご承知おきください。

（社）情報処理学会 研究会係 〒106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル 3 F Tel. 03(505)0505

年 月 日

研究会発表申込書（様式 2）

太線枠内のみご記入ください.

研究会名	研究会												
発表希望の 研究会開催日	年 月 日 ()												
タイトル													
発表者名 (略称所属)													
概要 (50 字以内)													
原稿用紙送付先住所	〒		Tel. — (内線)										
氏 名													

年 月 日受付

研究会名	資料 No.	開催日	幹事送付済み	その他
		年 月 日		

情報処理学会 第 39 回 全国大会実施要領

情報処理学会第 39 回全国大会（平成元年後期）を次の要領で開催します。

講演発表希望者は、実施要領を熟読のうえ、日程に従って所定の手続きを進めてください。

第 37 回から講演発表申込みは本論文で行い、論文締切後、ただちにプログラム編成委員会を開催し、プログラム編成を行うことになりました。

このため、講演申込、原稿用紙の請求、論文提出、講演日時のお知らせなどの方法が変更になっております。

論文締切日の厳守を徹底しますので、論文等の提出は必ず期日までにお出しください。一日でも遅れると発表できなくなりますので、特にご注意願います。

開催期日 平成元年 10 月 16 日(月)～18 日(水)

会 場 九州工業大学（北九州市戸畑区仙水町 1-1）

- 日程一覧**
1. 講演発表用原稿用紙等の請求
学会誌本号（Vol. 30, No. 3）掲載の請求書に記入して、応募規程 IV.1 の申込方法により請求してください。
 2. 原稿用紙等の送付
請求書を 5 月 22 日(月) に締切り、事務局から「講演発表申込書」、「論文原稿用紙」等をお送りします。
 3. 講演論文等の提出
講演論文（本原稿）、「講演発表申込書」等を一括して **7 月 10 日(月)** までに、学会事務局に必着するように提出ください。応募規程 IV.2 参照。締切りに遅れますと発表できなくなりますので、特にご注意ください。
 4. プログラム編成委員会の開催
講演論文等を締切り次第、大会プログラムの編成および座長候補の推薦を行います。この後、ただちに事務局から座長に依頼をいたします。
 5. 講演発表者には講演番号を **8 月上旬** に到着するようにご通知いたします。
 6. 大会プログラムを学会誌 9 月号（Vol. 30, No. 9）に掲載いたします。発表者は特にご注意ください。
 7. 論文集予約申込書を学会誌 7 月号（Vol. 30, No. 7）に掲載します。お早目にご予約ください。

応募規程

- I. 講演内容
 1. 全国大会にふさわしい内容を備えたものとします。
 2. 発表は日本語または英語とします。
- II. 応募資格
 1. 登壇発表者は申込時に情報処理学会個人会員であること。
 2. 共同発表者は当学会個人会員であることが望ましい。
 3. 平成元年度会費未納の会員は発表できません。
 4. 電気、電子情報通信、照明、テレビジョン各学会会員は当学会会員と同様の取り扱いとします。ただし、表彰対象者になりません。
- III. 講演論文該当分野
 1. 情報科学一般
 - A. 一般
 - a. 哲学, b. 歴史, c. 伝記, d. その他
 - B. 社会
 - a. 規格, b. 標準化, c. 知的所有権, d. 社会問題, e. その他
 - C. 教育
 - a. 情報科学・工学の教育, b. カリキュラム, c. コンピュータリテラシ, d. CAI, e. 教育工学,

- f. その他
- 2. 基礎理論及び基礎技術
 - A. 情報数学
 - a. 形式論理, b. オートマトン理論, c. 形式言語理論, d. 計算可能性の理論, e. 計算の複雑さ, f. アルゴリズム論, g. グラフ理論, h. 組合せ理論, i. ファジー理論, j. 符号理論, k. 整数論, l. その他
 - B. 情報理論及び OR
 - a. 情報理論, b. 線形・非線形計画法, c. 動的計画法, d. 整数計画法, e. ゲーム理論, f. 待ち行列理論, g. その他
 - C. データ解析
 - a. 推定・検定, b. 確率モデル, c. 統計・確率計算, d. 多変量解析, e. その他
 - D. 数値計算
 - a. 誤差解析, b. 関数近似, c. 補間, d. 線形計算, e. 非線形方程式, f. 数値微積分, g. 常微分方程式, h. 偏微分方程式, i. 積分方程式, j. 値極問題, k. 最適化, l. 特殊関数, m. 数式処理, n. 乱数, o. その他
 - E. シミュレーション
 - a. 有限要素法, b. 境界要素法, c. 差分法, d. モンテカルロ法, e. その他
- 3. 人工知能及び認知科学
 - A. 基礎理論
 - a. 探索, b. 定理自動証明, c. 推論方式, d. 知識表現, e. 知識獲得, f. 非単調理論, g. 学習理論, h. コネクションイズム, i. その他
 - B. 人工知能システム
 - a. エキスパートシステム, b. ガイダンスシステム, c. エキスパートシステム作成支援ツール, d. ゲームプログラム, e. 演繹データベース, f. 知能ロボット, g. その他
 - C. 自然言語処理
 - a. 機構翻訳, b. 自然言語インタフェース, c. 対話システム, d. 形態素解析, e. 構文解析, f. 意味解析, g. 文生法, h. 談話理解, i. 文法, j. 辞書, k. その他
 - D. パターン認識
 - a. 音声認識, b. 話者識別, c. 画像理解, d. 物体認識, e. 文字認識, f. リモートセンシング, g. その他
 - E. 生体情報処理
 - a. 視覚, b. 聴覚, c. 神経モデル, d. ニューラルネットワーク, e. その他
 - F. 感性情報処理
 - a. 心理モデル, b. 行動モデル, c. 感情モデル, d. その他
- 4. データ処理
 - A. 音声処理
 - a. 音声分析, b. 音声合成, c. その他
 - B. 画像・図形処理
 - a. 画質改善, b. 帯域圧縮, c. 符号化, d. 曲面合成, e. トモグラフィ, f. 3次元処理, g. グラフィックス, h. アニメーション, i. その他
 - C. テキスト処理
 - a. ワードプロセッシング, b. 日本語入出力, c. 文書処理, d. 卓上出版, e. フォントデザイン, f. その他
 - D. マルチメディア処理
- 5. ソフトウェア
 - A. 基礎理論
 - a. プログラム理論, b. オペレーティングシステム理論, c. データベース理論, d. 形式的意味論, e. 算法論理, f. 検証理論, g. カテゴリ理論, h. 属性文法, i. 計算パラダイム, j. プログラム合成・変換, k. その他
 - B. プログラム言語及び仕様記述言語
 - a. 手続き型言語, b. 論理型言語, c. 関数型言語, d. オブジェクト指向言語, e. 並列処理言語, f. システム記述言語, g. 数式処理言語, h. シミュレーション言語, i. 仕様記述言語, j. その他
 - C. 言語処理系

- a. 構文解析, b. コード生成, c. 最適化, d. コンパイラ, e. インタプリタ, f. その他
- D. ツール
 - a. エディタ, b. デバッガ, c. ベリファイヤ, d. コンパイラジェネレータ, e. ウィンドウシステム, f. その他
- E. オペレーティングシステム
 - a. 記憶管理, b. 入出力管理, c. 障害管理, d. 通信管理, e. ファイル管理, f. ジョブ・タスク管理, g. 自動運転管理, h. 並列分散処理, i. 例外処理, j. 性能評価, k. その他
- F. データベース・情報検索
 - a. データモデル, b. データ言語, c. データベース設計, d. 質問処理, e. トランザクション処理, f. 一貫性制約, g. ファイル構成, h. 検索方式, i. 分散データベース, j. マルチメディアデータベース, k. その他
- G. プログラミング技術
 - a. データ構造, b. ガーベッジコレクション, c. ハッシング, d. ソーティング, e. サーチング, f. その他
- 6. ソフトウェア工学
 - A. 開発技術
 - a. 設計理論, b. 要求分析法, c. 仕様記述法, d. プログラミング方法論, e. プロトタイピング, f. 部品化・再利用技術, g. プログラム自動構成, h. その他
 - B. テスト・保守
 - a. プログラムのテスト・デバッグ, b. プログラム検証, c. 性能評価, d. プログラム解析, e. 保守運用管理, f. その他
 - C. ソフトウェアプロセス
 - a. プロセスモデル, b. プロセスプログラミング, c. 工程管理, d. その他
 - D. 開発環境
 - a. 構成理論, b. 分散開発環境, c. 文書化支援, d. その他
 - E. ヒューマンファクタ
 - a. マン・マシンインタフェース, b. 要員教育・プロジェクト管理, c. プログラミング行動, d. その他
- 7. ハードウェア
 - A. 基礎理論
 - a. 組合せ回路理論, b. 順序回路理論, c. 論理設計理論, d. レイアウトアルゴリズム, e. ハードウェアアルゴリズム, f. その他
 - B. 論理回路
 - a. 記憶回路, b. 演算回路, c. 制御回路, d. 誤り検出・訂正回路, e. テスト容易化回路, f. その他
 - C. ディバイス
 - a. 論理ディバイス, b. 記憶ディバイス, c. 入出力ディバイス, d. ASIC PLD, e. その他
 - D. アーキテクチャ
 - a. 汎用計算機, b. 専用計算機, c. スーパーコンピュータ, d. ワークステーション, e. 高級言語マシン, f. 非ノイマンアーキテクチャ, g. 並列アーキテクチャ, h. マイクロプログラム, i. フォールトトレランス, j. その他
 - E. 周辺・端末
 - a. 外部記憶, b. ディスプレイ装置, c. ハードコピー装置, d. 文字読取装置, e. 図形入出力装置, f. 音声入出力装置, g. その他
 - F. 設計技術及び設計自動化
 - a. 方式設計, b. 機能設計, c. 論理設計, d. レイアウト設計, e. テスト設計, f. 設計記述言語, g. シリコンコンパイラ, h. その他
 - G. 開発環境
 - a. 統合化ツール, b. 設計環境, c. 設計データベース, d. その他
 - H. テスト・検証
 - a. LSI テスト, b. ハードウェア設計検証, c. 性能評価, d. その他
- 8. ネットワーク
 - A. 通信技術

- a. データ交換方式, b. 通信方式, c. 画像通信, d. トラヒック理論, e. ネットワークアーキテクチャ, f. プロトコル, g. プロトコル検証, h. その他
- B. ネットワーク管理
 - a. 名前管理, b. 経路管理, c. 障害管理, d. その他
- C. コンピュータネットワーク
 - a. WAN, b. LAN, c. 電子会議, d. 電子掲示板, e. 電子メール, f. 分散処理, g. その他
- 9. システム
 - A. 対話型システム
 - a. 構成理論, b. 方法論, c. CAE, d. CAD, e. CAM, f. CIM, g. CAI, h. 管制システム, i. 訓練システム, j. 意志決定システム, k. オフィスシステム, l. その他
 - B. オンラインシステム
 - a. 予約システム, b. バンキングシステム, c. その他
 - C. 制御システム
 - a. プロセス制御, b. 数値制御, c. 通信制御, d. 産業用ロボット, e. FA, f. その他
 - D. システム評価
 - a. 評価技法, b. 評価指標, c. 評価モデル, d. その他
- 10. 信頼性と安全性
 - A. 信頼性
 - a. 信頼性理論, b. 保全性理論, c. 信頼性評価, d. 故障解析, e. その他
 - B. 機密保護
 - a. 暗号理論, b. 認証, c. 鍵管理, d. 鍵配送, e. セキュリティ, f. その他
- 11. 応用
 - A. 企業等への応用
 - a. オフィス, b. 行政, c. 経営, d. 金融, e. 情報サービス, f. 生産管理, g. 計算センタ運営, h. 教育, i. その他
 - B. 工学等への応用
 - a. 航空・宇宙, b. 機械, c. 土木, d. 建築, e. 都市, f. 電気・電子, g. 計測, h. 生物, i. 物理, j. 化学, k. 原子力, l. 輸送・交通, m. 医学・歯学, n. その他
 - C. 芸術等への応用
 - a. 音楽, b. 絵画, c. 商業デザイン, d. その他
 - D. その他への応用
 - a. 自然科学, b. 社会科学, c. 人文科学, d. 障害者補助, e. その他
- IV. 申込方法
 - 1. 発表を計画された時

本号みどりのページ掲載の「全国大会講演発表用原稿用紙等請求書」に必要事項を記入して申込むこと。
 - 2. 講演論文を提出される時

講演論文（本原稿）および講演発表申込書等を添えて申込むこと。

なお、連続発表を希望される場合は、別紙にて標題、講演者名および発表順番を明記し、申込書と原稿をまとめて送付すること。
- V. 申込件数
 - 1. 登壇発表は原則として1人1件とします。
 - 2. 2件以上になる場合は、1件ごとに発表料が必要です。また、別紙にて標題、発表分野を明記し、申込書と原稿をまとめて送付すること。
- VI. 申込料金
 - 1. 1件につき、1ページ論文は**6,000円**、2ページ論文は**7,000円**です。
 - 2. 講演申込書、論文等を提出する際、同時に納入してください。なお、納入後、発表申込を取消されても返金できませんのでご注意ください。
- VII. 論文提出

1. 論文は、7月10日(月)(必着)までに提出してください。
2. 論文は日本語または英語とします。
3. 論文抄録を「学会発表データベース(第一系)、学術情報センター」に入力することになりました。所定の用紙および記入要領に従って記入のうえ論文と一緒に提出してください。なお、著作権は学会と共有です。
4. ワープロ、タイプで作成した原稿はプリントした原文をお使いください。
5. 論文提出後の訂正は原則としてできません。
ただし、やむを得ない事情で訂正(本文の訂正に限ります)をしたい場合は、8月16日(水)一日(午前9時から午後5時まで)に限り、学会事務局2階にて訂正を受付けます。なお、郵便、電話等による訂正はできませんのでご注意ください。

Ⅷ. 論文の採否

講演論文の採否は大会運営委員会(プログラム編成委員会)が決定する。採択しないものは、例えば次のような場合である。

1. 論文の内容が著しく不十分なもの。
2. 内容が商業宣伝に偏したもの(極端な商品名の引用には注意する)。
3. 同一または類似の発表がなされており、かつ前進がないもの。
4. 応募規程に違反するもの。
5. 提出期限に遅れたもの(次回への応募をお薦めします)。

Ⅸ. 論文集の配布

発表者には大会当日受付けにて、論文集全冊をお渡しします。

X. 発表論文の別刷はいたしません。

XI. 発表当日の講演者心得

1. 講演の始まる前に、必ず自分の発表会場の講演者受付で、出席の確認を受ける。
2. 必ず前の講演者の講演時間中には、座長席の前に設けられた講演者控で待機する。
3. 一般講演の時間は、質疑を含めて15分間とします(都合により13分間のセッションもあります)。講演中でも時間切れで打ち切ります。
4. 講演終了予定時刻の5分前および3分前に座長補佐がベルで合図します。
5. 講演の代理(読)は認めません。

XII. 申込先及び問合せ先

(社)情報処理学会 全国大会係

〒106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル Tel. 03 (505) 0505

第 39 回 全国大会講演発表用原稿用紙等請求書

- 1. 発表を希望する者は氏名、住所、請求部数を記入して申込むこと、返送用宛名用紙にも同様に記入のこと。
- 2. 原稿用紙等の送料として 1 組希望の場合は郵便切手 170 円、 2 組以上の場合は 1 組増すごとに 70 円添付のこと。
- 3. 申込みは本用紙のコピーを郵送のこと。
- 4. 本号掲載の実施要領をよく読んで請求してください。
- 5. 返信用封筒はいりません。

氏 名 _____ Tel. _____

住 所 _____

請求部数 1 ページ発表…… _____ 組請求します。
2 ページ発表…… _____ 組請求します。

(切り取らずにお申込みください)

(氏名)

(住所)

情報処理学会
第 39 回全国大会
原稿用紙在中

1 ページ発表 組
2 ページ発表 組

殿

学術奨励賞候補の推薦について

全国大会で優秀な論文を発表した会員の中から、大学学部卒業後 10 年未満（またはこれと同等）の若手の科学者・技術者約 10 名を選び、学術奨励賞を贈呈し表彰いたしております。

つきましては、来る 3 月 15 日～17 日に中央大学・理工学部で開催される第 38 回全国大会での登壇発表者の中から、下記により受賞候補者 1 名をご推薦くださいますようお願いいたします。

また、第 38 回全国大会参加者には会場に推薦用紙を用意してありますので、会場でご推薦くださるようお願いいたします。

なお、受賞者の選定は学術奨励賞委員会（委員長 野口副会長）で行い、その発表と表彰は本年 10 月に開催の第 39 回全国大会（九州工業大学）時に行われる予定です。

記

選定範囲および推薦数

第 38 回全国大会で発表された優秀な論文の登壇発表者 1 名

推薦資格 本学会正会員に限る。

推薦方法 官製はがきに、推薦する論文の ①講演番号 ②題目 ③登壇発表者名 ④所属 ⑤出身校（学部）卒年 ⑥推薦理由および推薦者の氏名、所属、住所をもれなくご記入のうえ、本会学術奨励賞係あてお送りください。

推薦締切 平成元年 3 月 31 日（当日消印有効）

表 彰 規 程（抜 粋）

第 5 章 学 術 奨 励 賞

第 19 条 学術奨励賞は、情報処理に関する学問、技術の奨励のため、有為と認められる新進の科学者または技術者に贈呈する。

第 20 条 学術奨励賞を受ける者は、全国大会において優秀な論文を発表した者で、つぎの各号に該当する者から選定する。

- イ 選定の時期において本会会員であること（選定の時期とは、第 1 回の委員会開催時とする。）
- ロ 講演の時期において大学の学部卒業後 10 年未満の者またはこれと同等と認められる者であること。
- ハ 大会参加申込の際講演者として登録かつ講演を行った者であること。
- ニ 本奨励賞を受けたことのないものであること。

第 21 条 第 20 条の選定は、全国大会終了後速やかに行う。

第 22 条 学術奨励賞は、毎回約 10 名ずつ選定し、贈呈する。

第 23 条 学術奨励賞は、賞状、賞牌および賞金とする。

- 2. 賞金は、1 名につき 20,000 円とする。

創立 30 周年記念論文の公募について

情報処理学会では創立 30 周年を記念して、下記により「記念論文」を公募することになりました。会員の皆さまは奮って応募されますようご案内いたします。

1. 応募資格

情報処理学会の会員（正会員、学生会員、海外会員）であること。共著可。

2. 論文の性格と書き方

ア. 情報処理に関するオリジナルな論文であること。

イ. 論文は邦文または英文とする。

ウ. 邦文論文は「情報処理学会論文誌原稿執筆案内」、英文論文は「欧文誌 JIP 原稿執筆案内」の書き方にそれぞれよることとするが、制限ページはいずれも刷り上り B5 判 12 ページとする。したがって英文論文の場合「欧文誌 JIP 原稿執筆案内」には“刷り上り 1 ページは、通常のテキストでは 1,000 語程度”とあるが、本記念論文の場合は 620 語程度となるので注意のこと。ただし、論文はできるだけ簡潔にまとめることが望ましい。

3. 応募方法

ア. 正論文 1 部およびコピー 5 部を提出すること。

イ. 応募論文の第一ページ標題の左肩に「創立 30 周年記念論文」と明記すること。

ウ. 締切 **1989 年 8 月 31 日**

エ. 送付先 〒106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル 3 F

(社)情報処理学会事務局 「創立 30 周年記念論文係」

4. 応募論文の取扱い

ア. 応募論文は記念論文査読委員の査読結果に基づき、拡大論文誌編集委員会で受賞論文の候補を決定する。原則として論文を著者に照会することはしないが、受賞決定後に執筆について助言することがある。

イ. 記念論文選定委員会は 10 編を限度として受賞論文を選定する。受賞論文のうち、特に優秀なもの 3 編以内を入選論文とし、そのほかを佳作論文とする。

ウ. 選定結果は「創立 30 周年記念式典」において公表し、受賞論文の表彰をおこなう。

エ. 受賞論文は「創立 30 周年記念学会誌」に掲載し、また「1990 年後期全国大会」において講演発表する。

オ. 受賞しなかった論文は著者の希望により一般論文扱いとする。

5. 表彰

ア. 受賞論文のすべての著者に対して表彰状および記念品を授与し、受賞論文ごとに賞金を授与する。

イ. 受賞論文 1 編につき論文別刷 100 部を贈呈する。

6. その他

不明の事項については、本学会事務局に問い合わせること。

第 1 回 演繹・オブジェクト指向データベース国際会議

The First International Conference on Deductive and Object-Oriented Databases (DOOD '89)

- 主 催** (社)情報処理学会 (IPSJ)
(財)京都高度技術研究所 (ASTEM RI/京都)
- 後 援** ECRC, ICOT, INRIA, MCC
- 協 賛** ACM SIGMOD, IEEE CS 等
- 日 程** 1989年12月4日(月)～6日(水)
- 場 所** 京都リサーチパーク, サイエンスセンタービル内会議場
- 主 旨** 最近, 次世代のインテリジェントデータベースを構築するための強力なデータベースの骨組みを与え
るために, オブジェクト指向のパラダイムとルールに基づく演繹システムの融合をめざす研究の必要
性が叫ばれ, その研究が盛んになりつつある. そこで, この問題だけにテーマを絞った国際会議の第
1回を日本で開催する運びとなった. テーマとしては下記のものを含むが, これらだけに限ってはい
ない (ただし, DOOD は演繹・オブジェクト指向データベースの略である).
- 論理とオブジェクトパラダイムの融合
 - DOOD とプログラミング言語の融合
 - DOOD における人工知能技術
 - オブジェクト指向概念の形式化
 - 並列論理型/オブジェクト指向プログラミング
 - DOOD における問合せ言語および問合せ最適化
 - DOOD システムに対する高級ユーザインタフェース
 - 実 DOOD システム
 - DOOD システムの応用
 - DOOD における一貫性制約
 - DOOD システムの性能評価
- 主な委員**
- 会議委員長 大野 豊 (情報処理学会会長, 京都高度技術研究所所長)
- 運営委員会委員長 Jack Minker (米国メリーランド大)
- プログラム委員会:
- アメリカ地区委員長 Won Kim (米国 MCC)
- ヨーロッパ地区委員長 Jean Marie Nicolas (西ドイツ ECRC)
- 極東地区委員長 西尾章治郎 (大阪大)
- 実行委員会委員長 牧之内顕文 (富士通研)
- 組織委員会副委員長 上林 彌彦 (九州大)
- 地方準備委員長 阿草 清滋 (京都大)
- 論文送付先** 日本の方は下記に5部お送りください.
- 560 豊中市待兼山町 1-1 大阪大学基礎工学部情報工学科
西尾章治郎 (Tel. 06 (844) 1151 (内) 4826, FAX 06 (853) 5747)
- 期 日** 論文締切 (英文ダブルスペース 20 頁以内, 1989年5月1日)
採録通知 (1989年8月1日)
最終論文原稿締切 (1989年9月25日)
事前参加登録締切 (1989年11月1日)
- 問合せ先** 600 京都市下京区中堂寺南町 17
京都リサーチパーク サイエンスセンタービル
(株)サイエンス・インターナショナル (SCI) 内
(宮崎 郁子 Tel. 075 (322) 7888 (代), FAX 075 (322) 5348)
- 関連行事** DOOD 89 開催中に(財)京都高度技術研究所主催でつきの行事を企画中である.

(1) DOOD チュートリアル

日 時：1989 年 12 月 3 日 (日)

テーマ：次の 4 テーマに関するチュートリアルを予定している。講師 (2 名は海外からの講師) は交渉中。

- オブジェクト指向データベース (基礎概念)
- 演繹データベース (基礎概念)
- ハイパーメディアとオブジェクト指向データベース
- DOOD の応用

(2) DOOD 展示会

先進的なデータベースシステムやハイパーメディアシステムを集めた展示会の開催を企画中。

この展示会は、DOOD 89 に引き続き開催される「アドバンスト・データベース・システム」シンポジウム期間中も行われる予定である。

[DOOD チュートリアル・展示会に関する問合せ先]

604 京都市中京区御池柳馬場通下ル京都朝日ビル 9 F

(財) 京都高度技術研究所内

DOOD チュートリアル・展示会事務局

(亀井 朗 Tel. 075 (256) 1677, FAX 075 (256) 1670)

~~~~~

## 「IFIP TC-2 Working Conference on Visual Database Systems」 開催について

表記国際会議を本年4月東京において開催いたします。皆さま奮ってご参加ください。

主催 IFIP TC-2  
共催 情報処理学会  
東京大学理学部情報科学科  
会期 1989年4月3日(月)～7日(金)  
会場 東京大学山上会館(東京都文京区本郷 7-3-1)  
プログラム概要(予定)

招待論文(4編: 米国2編, 西ドイツ1編, スイス1編)

投稿論文(19編: 米国6編, 日本4編, イタリア2編, 中国・オランダ・西ドイツ・スウェーデン・  
フランス・ソ連・シンガポール各1編)

パネル・ディスカッション

テクニカル・ツアー(4月5日午後)

参加費 1989年3月31日まで30,000円, 4月1日以降35,000円

参加費には予稿集一冊と4月6日(午後6時～8時)開催のレセプション費用が含まれます。

### 申込・問合せ先

東京大学理学部情報科学科國井研究室 白井靖人(113 東京都文京区本郷 7-3-1)

Tel. 03 (812) 2111 内 4116, FAX 03 (818) 4607, E-mail: b39756@tansei.cc.u-tokyo.junet

## 「IFIP TC-2 Working Conference on Visual Database Systems」

### 参加申込書

申込者 氏名 \_\_\_\_\_ 氏名の英語表記 \_\_\_\_\_

連絡先(住所, 会社名, 所属)

〒 \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_ Tel. \_\_\_\_\_

連絡先英語表記 \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

表記国際会議の参加を下記によって申し込みます。

○参加費 ☐ 30,000円

☐ 35,000円

○ツアー ☐ (無料, 参加する場合はチェック)

○送金方法(金額, 振込月日を記入)

\_\_\_\_\_円を\_\_\_\_月\_\_\_\_日, 下記銀行口座に振込みます。

第一勧業銀行 本郷支店 普通預金口座 1089902

口座名 IFIP TC-2 Working Conference 代表 國井利泰

注) 申込書は1枚1人としてください。(この用紙のコピーで可)

「AI 技術を使用した CAD システム」講習会開催について

来る6月6、7日開催の「IFIP Working Conference on the CAD Systems Using AI Techniques」(本号本欄参照)出席のため来日の海外著名研究者による標記講習会を下記により開催いたします。多数の方々のご参加をお願いします。

記

日時 平成元年6月5日(月) 9:30~17:00  
場所 機械振興会館ホール(地下2階)  
テーマ AI の概念と定義, システム設計への AI の応用, 実装設計への AI の応用, テストへの AI の応用(プログラムは4月号に掲載予定)  
講師 Dr. Ted Kowalski (AT & T Bell Lab.)  
Dr. Rostam Joobbani (Trimeter Tech. Corp.)  
Dr. Vishwani Agrawal (AT & T Bell Lab.)  
参加費 会員 10,000 円, 非会員 15,000 円, 学生会員 1,500 円  
申込期限 平成元年5月26日(金)(定員150名に達し次第, 締切ります)

キ リ ト リ 線

「AI 技術を使用した CAD システム」講習会

参加申込書

平成元年 月 日

申込書 氏名 \_\_\_\_\_ 会員 No. \_\_\_\_\_

連絡先(住所, 会社名, 所属) 〒 \_\_\_\_\_

Tel. \_\_\_\_\_

標記講習会の参加を下記によって申し込みます。

○参加費 (該当するものを○印でかこむ)

正会員, 賛助会員 10,000 円      非会員 15,000 円      学生会員 1,500 円

○送金方法

\_\_\_\_\_ 円を \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日送金します (金額, 送金月日を記入のうえ該当する送金方法を○印でかこむ)

a. 現金書留 (送金先 106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル (社)情報処理学会 講習会係)

b. 銀行振込 (いずれも普通預金口座)

|                                |         |           |         |
|--------------------------------|---------|-----------|---------|
| 第一勧銀虎ノ門支店                      | 1013945 | 富士銀行虎ノ門支店 | 993632  |
| 三菱銀行虎ノ門公務部                     | 0000608 | 三井銀行本店    | 4298739 |
| 住友銀行東京公務部                      | 10899   | 三和銀行東京公務部 | 21409   |
| 名義人 東京都港区麻布台 2-4-2 社団法人 情報処理学会 |         |           |         |

請求書類の必要な方はお申し出ください。

請求書      通, 見積書      通, 納品書      通

請求先 \_\_\_\_\_

(注) 申込書は1枚1人として下さい (この用紙のコピーで可)

## 「IFIP WG 10.2 AI技術を使用したCADシステム・ ワーキング・カンファレンス」参加者募集

- 名 称** IFIP WG 10.2 Working Conference on the CAD Systems Using AI Techniques
- 会 期** 1989 年 6 月 6 日 (火)～7 日 (水)
- 場 所** 東京大学 山上会館 (東京・本郷)
- 主 催** 国際情報処理連合 (IFIP) TC 10 および情報処理学会
- 協 賛** 電子情報通信学会および IEEE Computer Society
- 目 的** AI 技術を用いた CAD システムに関する研究発表と討論を通じて、大規模化、複雑化の著しいデジタル・システムあるいはこれを構成する VLSI の設計手法の展望を示す。
- プログラム** ・Keynote Address “At The Cross Roads: Looking Both Ways” T.J. Kowalski (ベル研)  
・Invited Speech “The Evolution of Knowledge-Based VLSI Design Tools—CMU Perspective”, R. A. Rutenber (CMU)  
・Regular Sessions: Expert System (“KRAFT: A Knowledge-Base for CAD”, “A Knowledge-Based Approach to Design Task”, “Expert Database Support for CAD Complex Objects”, “Synergism of AI and CAD”, “DRCA: An Expert System to Improve Signal Quality in Digital Networks”, “A Black-board Architecture to support Generation of Schematics for Design Automation”, “Interactive Refinement of Architecture Using Knowledge in Special-Purpose Circuit Design System”)  
Logic Design (“CMOS Circuit Abstraction and Verification Using AI Techniques”, “Synthesizing Correct Logic Designs Using Formally Verified Design Heuristics”, “The Verification System of Data Path Using Temporal Logic Based Language: Tokio”, “Non-monotonic Reasoning in Digital Circuit Design”, “Layering Expertise in a Full-Range Hardware Synthesis System”, “Application of Equational Term Rewriting Techniques in Synthesis Systems: A Technology Independent Optimizer”, “An AI Tool for Reliable VLSI Synthesis”, “Redesign Mechanism for Logic Design Support System”)  
Layout Design (“Modelling Layout Problem Solving in Logic”, “An Intelligent VLSI Leaf Cell Layout Placement”, “Performance Analysis of an AI-based Placement System”, “Towards a Domain Specific Shell for Design Rule Checking”, “Extraction of Logical Design Structure and Its Application to PWB Layout”, “KAT: Knowledge Aquisition Tool for PWB Layout Expert System”) Testing (“Testability Expertise and Test Planning from High Level Specification”, “Temporal Logic Based Test Generation for Sequential Circuits”, “A Planning Model for the Embedding Problem in Design for Testability”, “Formal Verification and Diagnosis of Digital Circuits Using a Propositional Theorem Prover”)
- 公 用 語** 英 語
- 参 加 費** (一般) 40,000 円 (資料代, レセプション費を含む)  
(学生) 30,000 円 ( “ ” )
- 定 員** 100 名 (定員に達し次第締切, 早めにお申し込みください)
- 申込・問い合わせ先**

(財)日本学会事務センター国際会議事務局 AI-CAD 会議事務局

〒113 東京都文京区本郷 3-23-1 クロセピア本郷2階

Tel. 03 (817) 5831 FAX 03 (817) 5838

## 「コンピュータ通信ワークショップ (JWCC: Joint Workshop on Computer Communications)」の論文募集

マルチメディア通信と分散処理研究会では、コンピュータ通信、分散処理等について、海外からの研究者も含めて、幅広く議論を行うために、下記の要項でワークショップを開催いたします。奮って、論文を投稿してください。

**日 時** 1989年7月13日(木)～15日(土)

**場 所** 東京大学工学部講堂

**トピックス** コンピュータ・ネットワーク (LAN/MAN/WAN), OSI, 分散処理, 分散型データベースシステム, マルチメディア通信, 学術ネットワーク, ネットワーク管理とセキュリティ等

**実施方法** (1) 発表論文は、英文とし、公募します。発表も英語で行います。

(2) 応募される場合は、アブストラクト(英文200語程度)を5月10日までに提出してください。

本論文は、A4判で10ページ以内で、カメラレディなものを6月15日までに提出してください。

論文は、郵送に加えて、電子メールが利用できます。

(3) 国内の研究者に加えて、海外からの参加もあります。

(4) 参加費用は、以下のとおりです。

参加費用 20,000円(会議参加) 30,000円(会議参加及び宿泊)

10,000円(学生の会議参加)

**論文送付先** 113 文京区弥生 2-11-16 東京大学大型計算機センター 石田 晴久

Tel. 03 (812) 2111 (内 2731) (FAX) 03 (814) 7279

(E-Mail) (国内) ishida@u-tokyo. junet

(国際) ishida%u-tokyo. junet%relay. cs. net

\* 参加申し込み等については、今後本欄でお知らせいたします。

~~~~~

「学習のパラダイムとその応用」シンポジウム論文募集

「知識工学と人工知能研究会」では、「学習のパラダイムとその応用シンポジウム」を開催いたします。本シンポジウムでは、記号処理、ニューラルネット、エキスパートシステム等のさまざまなドメインでの学習の問題をとおり、それらのドメインを越えた、一般的学習の問題点、将来像を浮き彫りにすることを目的としています。そのため、現在の各ドメインでの学習の話題のほか、新しいドメインを探る話題等を中心に論文を募集します。奮って論文をお寄せください。

日時 1989年11月6日(月)、7日(火)

場所 機械振興会館大ホール (東京都港区芝公園)

トピックス

- 記号処理による学習
- ニューラルネットによる学習
- エキスパートシステムでの学習 (知識獲得)
- 記号による学習とニューラルネットによる学習の比較、融合
- 類推
- 学習におけるドメイン情報の利用
- ドメインを越えた学習のパラダイムに向けて

実施方法

- (1) 発表論文については、審査制とする。
- (2) 応募論文は、アブストラクトを含めるものとし、和文 (A4判で10枚以内) または、英文 (A4判ダブルスペースで10枚以内) とする。ただし、英文論文には、別に和文アブストラクトを添付のこと。
- (3) スケジュールは次のとおりとする。
 - 論文締切 7月7日 (金)
 - 受理通知 8月10日 (木)
 - 最終論文 9月30日 (土)

応募される方は、論文とコピー2部を下記へご送付ください。

送付先 106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル
(社)情報処理学会 「学習のパラダイムとその応用」シンポジウム係
Tel. 03 (505) 0505, FAX 03 (584) 7925

問合せ先 305 つくば市梅園 1-1-4 電総研・認知科学研究室
諏訪 基 (Tel. 0298 (54) 5460, FAX 0298 (52) 0865)

「アドバンスト・データベース・システム」シンポジウム論文募集

現在、次世代データベースシステム技術の研究開発が国内外において急速に活発化しており、特に、応用分野の広がりに伴う高機能化・データベース・モデリング能力の高度化・マルチメディア情報の扱い・ハイパーメディアとデータベースの結合・プログラミング言語や演繹機能との融合などという立場から、種々の研究開発が行われている。

本シンポジウムでは、次世代データベースシステムに関連する基礎的な問題から応用事例にいたるまでの先鋭的な論文を募集し、次世代データベースシステムの今後の方向や問題点などを討論する場としたい。特に、今年度は、同時期に京都で開催される DOOD '89 (第1回演繹・オブジェクト指向データベース国際会議) に引続いて本シンポジウムを行うことにより、国際交流を深める場としたい。

日時 1989年(平成元年)12月7日(木)、8日(金)
場所 京都リサーチパーク、サイエンスセンタービル内会議場

トピックス 本年度は、主に、次世代データベース技術に関連する以下のようなトピックに焦点をあて、これに関する理論・システム開発・高度応用事例などの論文を募集します。なお、以下のトピック以外の論文投稿も受け付けます。

ハイパーメディア、図形・画像・音声データベース、視覚的操作言語、
 文書処理・DTT とデータベース、自然言語辞書、テキストデータベース、
 データベース設計、ビジュアルインタフェース、
 高度データモデル(意味データモデル、オブジェクト指向データモデルなど) データベースプログラミング言語、プログラミング言語との融合、
 CAD/CAM/CIM データベース、CASE・ソフトウェア CAD 用データベース、
 分散型データベース、データベースの並列処理・分散処理、
 その他

- 実施方法**
- (1) 発表論文については審査制とする。
 - (2) 応募論文の形式は
 - (a) アブストラクトも含めて英文 5,000 語まで、または、
 - (b) 邦文(9,000 字まで)で、英文アブストラクトを付けたものとする。
 - (3) 発表は、7日は英語、8日は日本語による発表とする予定。
 - (4) 興味の高いテーマについてサーベイや招待講演を行う予定。
 - (5) スケジュールは次のとおりとする。

論文締切 8月31日(木)

採用決定 9月30日(土)

最終論文 11月4日(土)

- (6) 応募論文はコピー3部を下記申し込み先へ送付のこと。

申し込み先 (社)情報処理学会 アドバンスト・データベース・システムシンポジウム係
 106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル Tel. 03 (505) 0505

関連行事の開催日程

12月4～6日：第1回演繹・オブジェクト指向データベース国際会議(京都リサーチパーク)

平成元年度各種行事の予定について

4月以降の主な行事予定は以下のとおりです。詳細は順次本欄にてお知らせします。なお、期日・会場が変更されることもありますので、ご留意ください。

行 事	期 日	会 場
第 31 回 通常総会	5・18 (木)	機械振興会館
第 39 回 全国大会	10・16 (月)～18 (水)	九州工業大学
第 40 回 全国大会	平成 2 年 3・13 (火)～16 (金)	早大理工学部
平成元年電気・情報関連学会連合大会 (共催)	平成元年 9・ 5 (火)～ 7 (木)	早大理工学部
~~~~~		
(シンポジウム)		
コンピュータ通信ワークショップ	7・13 (木)～15 (土)	東大工学部講堂
1989 年夏のシンポジウム	7・24 (月)～26 (火)	熱海ビレッジ
第 22 回 情報科学若手の会	(未 定)	(未 定)
ドメインを超えたパラダイム	11・ 6 (月)～ 7 (火)	機械振興会館
教育における新しい方法	11・ 9 (木)～10 (金)	〃
マルチメディア通信と分散処理	11・16 (木)	〃
自然言語処理技術の最近の動向	11・16 (木)～17 (金)	ATR
グラフィクスと CAD	11・21 (火)～22 (水)	機械振興会館
コンピュータ・システム	11・28 (火)～29 (水)	〃
アドバンスト・データベース・システム	12・ 7 (木)～ 8 (金)	京都リサーチパーク サイエンスセンタビル
利用者指向の情報システム	12・ 8 (金)～ 9 (土)	東大山上会館
第 31 回 プログラミング・シンポジウム	平成 2 年 1・ 9 (火)～11 (木)	箱根・ホテル小涌園
(講習会)		
AI 技術を使用した CAD システム	6・ 5 (月)	機械振興会館
ステレオグラフィクスの基礎から応用まで	9・29 (金)	〃
(共 催)		
第 20 回 画像工学コンファレンス	12・12 (火)～14 (木)	ABC 会館ホール
1990 情報学シンポジウム	平成 2 年 1・17 (水)～18 (木)	日本学術会議講堂
(国際会議共催)		
IFIP TC-2 Working Conf. on Visual Database Systems	1989 年 4・ 3 (月)～ 7 (金)	東大山上会館
Int'l. Symp. on Database Systems for Advanced Applications	4・10 (月)～12 (水)	Seoul・Korea
IFIP WG 10.2 Working Conf. on the CAD Systems Using AI Techniques	6・ 4 (日)～ 5 (月)	機械振興会館
3rd. Int'l. Conf. on Computer Applications in Production and Engineering	10・ 2 (月)～ 5 (木)	京王プラザホテル
1st. Int'l Conf. on Deducate and Object-Oriented Database	12・ 4 (月)～ 6 (水)	京都リサーチパーク サイエンスセンタビル

## 四国支部設立総会について

このたび中国四国支部から四国地域を分離することとなり、下記により情報処理学会四国支部の設立総会を開催します。四国地区に在住または勤務する会員はご出席をお願いいたします。

### 記

日 時 平成元年 4 月 15 日 (土) 14 時～18 時  
会 場 愛媛共済会館 (松山市三番町 5-13-1 Tel. 0899 (45) 6311)  
総 会 (14:00～15:00) <4 F 寿>  
記念講演 (15:00～16:00) <同 上>  
地域振興とソフトウェア 会長 大野 豊  
設立祝賀会 (16:00～18:00) <4 F 雅>  
会費 3,000 円  
なお、準備の都合がありますので、祝賀会ご出席の方は、4 月 10 日(月)までに下記にご連絡ください。

問合せ先 790 松山市文京町 3 愛媛大学工学部情報工学科 石田信子 Tel. 0899 (24) 7111 (内 3665)

## 本 会 協 賛 等 の 行 事 案 内*

講習会「生産技術におけるパソコンの利用—生産ラインでの活用例」  
平成元年 5 月 10 日 (水) 東京工業大学百年記念館  
講習会「最近の画像処理技術—基礎と応用」  
平成元年 6 月 13 日 (火)～14 日 (水) 東京・ダイヤモンドホール  
Computer Graphics Osaka '89  
平成元年 6 月 14 日 (水)～16 日 (金) マイドームおおさか, 他  
第 26 回 サマーセミナー  
平成元年 8 月 24 日 (木)～26 日 (土) 諏訪・山王閣  
第 32 回 自動制御連合講演会  
平成元年 10 月 4 日 (水)～6 日 (金) 東京・電気通信大学  
SAIRAS '89  
平成元年 10 月 18 日 (水)～19 日 (木) 東京・機械振興会館  
第 7 回 日本ロボット学会学術講演会  
平成元年 11 月 2 日 (木)～4 日 (土) 埼玉・芝浦工業大学大宮校舎  
第 6 回 色彩工学コンファレンス  
平成元年 11 月 15 日 (水)～16 日 (木) 東京・全電通ホール

* 詳細は本号会議案内欄参照

## 「情報処理ハンドブック」の発行について

情報処理ハンドブック編集委員長

尾 関 雅 則

情報処理学会発行の「情報処理ハンドブック」は、わが国で最も権威ある標準的なハンドブックとして、永年にわたりこの方面にたずさわる人々に親しまれてまいりました。

しかしながら、情報処理に関する学問・技術および応用の進展は、まことに急激かつ膨大であり、発刊以来すでに9年の歳月を重ね、現行ハンドブックの内容は、もはや時代の要請に応えるものとは言えなくなっております。

当学会においては、かかる事情を勘案して、1987年のはじめより全く新しい構想のもとに改訂版の発行を計画し、330名におよぶ編集委員および執筆委員の絶大なご努力を得て、このたびようやく面目を一新した新版を発刊することになりました。書名もこれまでの「新版情報処理ハンドブック」をすばり「情報処理ハンドブック」といたしました。

この新しいハンドブックは、最近における情報処理の学問・技術および応用に関して、グローバルな視野にたち、もっとも新しい知識と情報を網羅し、広く関係者各位の皆さまにとり座右のよき伴侶としてお役にたつものと確信する次第であります。とくに当学会会員諸君にとっては共通のスタンダードとして常に愛用され、学界活動のレベル向上に役立てていただければ、編集・執筆にあたったものとして、喜びこれにすぐるものではありません。

### 本書の特徴

1. 情報処理・情報工学および情報科学の全分野をカバーしたわが国で最も権威のあるハンドブック
2. 情報処理技術とその応用分野の急激な発展・拡大をふまえ、まったく新しい構想のもとに編集
3. 情報科学の基礎理論から関連規格に至るまで、体系的に整理された全17編構成による、アクセスしやすい、使いやすい編成
4. 最新の研究・技術の成果を積極的に取入れ、可能な限り将来を見とおした記述
5. 計算機アーキテクチャ、高水準インタフェース、データベース、人工知能、情報通信、教育等、今日の重要なテーマを十分とり入れた内容
6. 関連技術者・研究者・教育者・学生の好伴侶となり、また専門外の読者でも容易に概念がつかめ、さらに深く進むための手引きとなるよう配慮
7. 適切な見出しと豊富な索引を付し、辞書的性格をもたせ、見やすさ・引きやすさを配慮
8. 各分野の第一線で活躍する研究者および技術者300余名による執筆

*会員予約特価は26,800円（送料込）（定価33,000円）とし、予約方法などの詳細については、次号本誌（4月号）においてお知らせいたします。

## 新年度にあたって（お願い）

### ——会費・購読費の請求，新会員勧誘など——

新年度にあたって，会員の皆さまにつきの点につきご確認いただき，あわせてご協力のほどお願いいたします。

#### （１）平成元年度の会費および論文誌・欧文誌購読費の請求

前号本欄でお知らせしたとおり，新年度から会費を改定いたしますので，会費および購読費の請求は4月下旬に納付書（郵便振替用紙）を送付いたします。また，預金口座振替の会員は5月29日（月）に自動振替いたしますので，ご留意ください。

#### （２）大学学部卒業予定の学生会員の会費

本年3月に大学学部卒業予定の学生会員には，平成元年度会費は正会員（9,600円）として請求いたします。大学院修士課程に進まれた方は，学生会員として継続できますので，会員番号を付し，大学院名・研究科名・専攻名，修了予定年月および学会誌の送本先を変更する場合はその宛先等を必ずご連絡ください。

#### （３）退 会

書面（様式任意，はがき可）にてお申出ください。なお，63年度会費が未納の場合には，昨年4月以降送本した学会誌を会費月割りで精算のうえ請求いたします。

また，63年度会費未納者には，これまで再三にわたり請求いたしております。納付いただけない場合には，本学会から除名することがありますので，ご承知ください。

#### （４）学会誌の送本先変更

勤務先，自宅住所に異動のある方は，必ず所定の「変更連絡届」用紙（4月号，10月号に添付）にて会員番号を付し，早速にご連絡ください。

#### （５）論文誌・欧文誌の新規購読

論文誌（月刊）および欧文誌（季刊）は有料頒布です。購読を希望する会員は2月号に添付の申込書を使用して，お申込みください。

---

#### 新入会員勧誘のお願い

3月は入会に絶好のチャンスです。本号末尾綴込みの入会申込書で，入会をご勧誘ください。